

英文メディアの同格表現にみる 制限用法関係代名詞 *that/which* の選択要因について—再考¹

小 西 和 久

(元早稲田大学)

1. はじめに

英米の主要メディアはそれぞれのスタイルブックで、関係代名詞の選択に当たっては、いわゆる *that/which rule* を遵守するよう記者や編集者の注意を喚起している。このルールに従うと、先行詞が「人やニックネームが付けられた動物」以外の場合には、制限節では *that* を使い、非制限節ではカンマを打って *which* を使うことが原則となる。しかし、実際に英米の主要メディアの記事を読むとそこそこの頻度²で、制限節で *that* に代えて *which* が用いられていることに気が付く。そして、この現象が比較的頻繁に見られるのが同格表現である。

小西 (2017) においては、これらのメディアに見られた *that* や *which* を用いた 16 の同格表現の用例、ならびに米国の小説から取った同様の 2 つの用例を検討し、なぜ制限用法で *that* が選択されたり、*which* が選択されたりするのか、その要因を突き止めようと試みた。検討した用例には、次のような同格表現が含まれる (以下、下線やイタリックは筆者)。

用例 1 : Fees at Minerva Schools, an online institution that aims for top-notch students, are half of those at Ivy League universities. (*The Economist*, 10/2/2014)

(ミネルバ・スクールズはオンライン授業を展開する (米国の) 大学で、トップクラスの学生の獲得を目指して授業料をアイビーリーグの大学の半額に設定している)

用例 2 : : All this helps to explain concerns over the use of face-recognition software by the likes of Google and Facebook, which have been acquiring firms that specialise in that technology, or licensing software from them. (Google recently snapped up Pittsburgh Pattern Recognition, the firm which owns the programme the researchers used for their tests.) (*The Economist*, 7/30/2011)

[こうしたことから、グーグルやフェイスブックなどが画像認識ソフトを使用することに関して、懸念が持たれる理由が理解できる。こうした企業は画像認識技術に特化した会社を買収したり、それらの会社からソフトのライセンスを受けている。(グーグルは最近、ピッツバーグ・パターン・レコグニションを買い取った。その会社は研究者たちが試験に用いたソフトを所有している)]

用例 1 では *Minerva Schools* と *an online institution that aims for top-notch students* が同格関係にある。関係代名詞は制限用法の *that* が使われており、*that/which rule* に従っ

ている。用例 2 では *Pittsburgh Pattern Recognition* と *the firm which owns the programme the researchers used for their tests* が同格関係にあるが、ここでは *which* が使われており、*that/which rule* は破られている。この 2 用例は共に英国の *The Economist* 誌が出典で、同誌も *that/which rule* を原則として遵守すべきと自らのスタイルブックに明記している。スタイルブックは「バイブル」とも呼ばれる存在で、その指示に背く場合には特段の理由がある筈だ。それを探るために、後述する更に 4 つの同格表現も検討し、次のような推察をした³。

「用例 1～6 を繰り返し読んでみると、*that* が使われている場合には、当該文あるいはその周辺の文の内容を理解するために「不可欠」(essential) な情報が関係代名詞節で提供されているような印象を受ける。一方、*which* が使われている場合には、それが関係代名詞制限節であるにも拘わらず、大方の場合に、あたかも非制限節であるかのように「補足的」(nonessential) な情報を提供しているような印象を受ける。」

つまり、用例 1 では、*Minerva* の授業料が *half of those at Ivy League universities* である意義を理解するには、*Minerva* が *top-notch students* を対象にした *online institution* であることは不可欠な情報と思われ、*that* はそのことを示すために用いられている、と推察した。一方、用例 2 では、*Google recently snapped up Pittsburgh Pattern Recognition* という事実が重要なのであって、研究者が試験に用いたソフトを所有するのが *Pittsburgh Pattern Recognition* という情報は補足的な意味合いしか持たず、それがゆえに *which* が使われた、と推察した。そして、用例 1～6 に加えて用例 7～16 を考察し、こうした視点から 1～16 の同格表現中で用いられる *that* または *which* (用例 11 では *that* と *which* が各 1 つ、用例 15 では *that* が 2 つ使われているので、*that/which* の総数は 18 となる) の用法を次のように分類した⁴。

- (1) 用例 1、3、5、7、9、10、11-2、13、15-1、15-2 :

that に導かれる関係代名詞節は「不可欠な情報」を付加しているように思われる。

- (2) 用例 2、4、8、16 :

which に導かれる関係代名詞節は「補足的な情報」を付加しているように思われる。

- (3) 用例 6、12、11-1、14 :

which に導かれる関係代名詞節は「補足的な情報」というよりは、「不可欠な情報」を付加しているように思われる。しかし、① 関係代名詞節が分詞構文を伴っており、構文全体が長く複雑 (用例 6、12)、② 同格表現を含む文の中に他品詞の *that* が混在する (用例 11-1)、③ 制限用法の関係代名詞とその動詞との間に挿入句がある (用例 14)、といった理由で関係代名詞 *that* に代えて *which* が使われているのではないか。

しかし、小西 (2017) で上記のような推察を行ったものの、その後も同格表現で使われている *that* や *which* に出くわすと、上記のような視点では、それぞれの関係代名詞が選択された理由を的確に判断できていないのではと思われることが少なからずあった。だが、

なぜそのような印象を受けるのかは釈然としなかった。

そうした中、最近、いくつかの興味深い同格用例に遭遇した。ひょっとすると、これらの用例が同格表現中で用いられる *that/which* の用法を理解する手掛かりの一部になるのかも知れないと思い、小西（2017）の用例 1～16 の「再考」を今回、試みることにした。なお、本再考においては、*ChatGPT*、*Microsoft Copilot*、*Grammarly* といった AI ツールも適宜、利用した。（最近、*ChatGPT* にどの程度、英語を学習したのかと尋ねたところ、人間が年間に 100 万～1000 万語英語を読むとした場合に、*ChatGPT* の学習量は年間に 1000 万語読む人間が 10 万年を要する学習量に匹敵すると答えてきた。*ChatGPT* などの AI に語法関連の質問をすると即座に返事が得られ、その内容を読むと、英語母語者の能力に引けを取らないレベルではないかとの印象を筆者は持っている。但し、「制限用法の *which*」の用法に関しては、通常の文法書のレベルを超すものではないように思われる。）

2. 新たな用例の発見

2-1. 同格表現中の *which* が制限用法ではなく、「カンマを省略した非制限用法」の場合

前述の用例 1 や 2 などに見られる同格表現は、〈名詞(句)A〉＋〈カンマ〉＋〈名詞(句)B〉＋関係代名詞 *that* 又は *which* 節〉の構造になっている。この場合の *that* や *which* の先行詞は何かと問われれば、前述の用例 1 の場合には *that* の直前に位置する〈名詞(句)B〉 *an online institution* 中の *institution*、用例 2 では *which* の直前に位置する〈名詞(句)B〉 *the firm* 中の *firm* と答えるのではなかろうか。筆者が最近、遭遇した次の用例 I、II、III の場合には、それぞれの用例中の 2 カ所の下線部が同格関係にあるが、関係代名詞の先行詞は何であろうか。

用例 I: Such trends have altered the chip-design habitat. First to benefit were “graphics processing units” (GPUs), a kind of hyena which are mainly made by Nvidia. (*The Economist*, 7/7/2018)

[これらの趨勢が半導体の設計を巡る環境を変えた。その恩恵に先ず預かったのは、「画像処理装置」(GPU)だ。GPU は例えて言えば、ハイエナのようなもの(で動きが俊敏)。主要メーカーは Nvidia 社だ]

用例 II: William Hanage, associate professor of epidemiology at the Harvard T.H. Chan School of Public Health, said the reliability of serological tests, the kind used in the New York study which check for antibodies for the coronavirus, is unclear, and he noted the tests may also generate false positives results. (*The Wall Street Journal*, 4/23/2020)

(ハーバード・T・H・チャン公衆衛生大学院のウィリアム・ヘイニッジ准教授によると、血清学検査の信頼性は明らかではない。血清学検査はニューヨークで行われた研究で用いられたのと同種のもので、コロナウイルスの抗体の存在を調べる。同氏によると、こうした検査は偽陽性の結果を生み出す可能性があると言う)

用例 III: Anheuser-Busch InBev, the world’s biggest brewer which has sponsored the tournament for \$75m, will now only sell Bud Zero, an alcohol-free beverage, at stadiums. (*The Economist*, 11/19/2022)

(アンハイザー・ブッシュ・インベブは世界最大のビール醸造所。7500万ドルでトーナメントのスポンサー契約を結んだが、競技場で現在販売できるのはアルコールゼロの Bud Zero のみとなっている)

用例 I では、先行詞は一見、*a kind of hyena* 中の *kind* と思われる。しかし、*which* に続く動詞が *are* であることから、*graphics processing units (GPUs)* でなければならない。用例 II においても一見、先行詞は *the kind used in the New York study* 中の *kind* と思われるが、*which* に続く動詞が *check* であることから、*serological tests*⁵ となる。つまり、用例 I と II の *which* は制限用法ではなく、「カンマが省略された非制限用法」ということになる。用例 III はどうか。*which* に続く助動詞が *has* であり、文法上は *Anheuser-Busch InBev* も *the world's biggest brewer* も先行詞となり得る。だが、「会社名」も「世界最大の醸造所」も唯一無二なので、この *which* もカンマが省略された非制限と見なすべきである。では、先行詞はどちらか。手元にある複数の文法書を調べても、この点に関する解説は見られない。因みに、*ChatGPT*、*Microsoft Copilot*、*Grammarly* に問いかけると、先行詞は *the world's biggest brewer* ではなく、*Anheuser-Busch InBev* で、*which* については非制限用法なのでカンマが必要と返答してきた。又、*ChatGPT* は、*Anheuser-Busch InBev* を先行詞と見なす理由は、これが本同格表現中の *main noun* であるため、*the world's biggest brewer* はそれを補足説明しているに過ぎないと言う。

用例 I、II、III の関係代名詞 *which* が「カンマが省略された非制限用法」であることは、疑う余地がなかろう。そして、先行詞は I、II の場合と同様に、III も関係代名詞の直前の <名詞(句) B>ではなく、その先にある <名詞(句) A>と見なすのが順当であろう。小西(2017: 32)では、以下の第3項「小西(2017)の再考」で紹介する用例 2、4、8、16 に関して「上記(2)にある4つの用例に見られる *which* は、共に本質的には『カンマが省略された非制限用法』と見なすことはできないだろうか」と問いかけたが、断定するには至らなかった。

こうした同格表現で「カンマが省略された非制限用法 *which*」が用いられる背景を探るために、次の *The New York Times* からの用例を用いて、*Grammarly* に質問してみた。

用例 IV : A recent review by Cochrane, a global independent organization that produces systematic assessments of evidence on health care, found no evidence supporting this protocol. (*The New York Times*, 8/27/2018)

(医療データを評価する世界的な独立機関である(英国の)コクランによる最近の評価によると、この治療法の有効性を支持するデータはない)

本用例を *A recent review by Cochrane, a global independent organization, which produces systematic assessments of evidence on health care, found no evidence supporting this protocol.* と書き換えることは可能か *Grammarly* に尋ねたところ、*Yes, it is appropriate to use "which" instead of "that" in this sentence. The use of "which" introduces additional information about Cochrane, and the comma before "which" correctly sets off this non-restrictive clause.* との反応が瞬時に帰ってきた。つまり、同格

表現中の制限 *that* を、カンマを付して非制限 *which* で置き換えてもよいとの指摘である⁶。

注目したいのは Grammarly が次のように続けてきたことだ。 *Therefore, the revised sentence would be: “A recent review conducted by Cochrane, a global independent organization which produces systematic assessments of evidence on healthcare, found no evidence to support this protocol.”* と下線部の変更を加えて返答して来た。 *that* を非制限 *which* で置き換えることは *appropriate* とした上で、説明なしに *which* の前のカンマを外した文を提示してきたのだ。その理由を問うと、 *The use of too many commas can often make a sentence confusing and difficult to read. In this case, it's better to avoid using a comma before “which”....*。つまり、「カンマが多過ぎる文は、理解し難く読み難い」、「この場合には、*which* の前のカンマは省略した方が良い」との指摘で、膨大な量の英文を深層学習した AI がこのようにコメントをすることが興味深い。

非制限関係代名詞の前のカンマが、時に省略されることは、一般の文法書ではほとんど指摘されていないが、*Follet (1966: 431)* は *an interview with the President who, for understandable reasons, would promise nothing* という例を紹介して、 *The comma needed after President is omitted because of a feeling that two commas are all the traffic will bear* と解説している。つまり、... the President, who, for understandable reasons, would としていない理由は「(ここでは) 文の流れからして、カンマの数は2つが精一杯といった感覚で *who* の前のカンマが省略された」との指摘だ。本再考ではこうした視点も念頭において考察したい。

2-2. 非制限関係代名詞節の先行詞が不明確な場合にそれを補うために用いる同格表現 最近の CNN のニュースに次の用例があった。

用例 V : The mother of Brian Laundrie, the man who killed his fiancée, Gabby Petito, and later himself in 2021, wrote to her son saying she would help him “dispose of a body” or “bake a cake with a file in it” to help him in jail, according to a copy of the undated letter obtained by CNN. (*CNN*, May 25, 2023)

(CNN が入手した日付がない手紙のコピーによると、2021 年に婚約者ギャビー・ペティトを殺害し、後に自殺したブライアン・ローンデューリーの母親は息子に手紙を書いて、「遺体の処理」だって「何だって」してあげるからと伝えていた)

本用例は *that* 又は *which* ではなく、*who* を用いた同格表現を含むものだが、非制限用法の関係代名詞節の先行詞が不明確な場合に、それを補正するために同格表現が用いられる場合があることを示しているようで興味深い。本用例を同格表現を用いずに関係代名詞のみで書くと、 *The mother of Brian Laundrie, who killed his fiancée, Gabby Petito, and later himself in 2021, wrote to her son* となるが、*killed* まで読み進めた時点で、*who* の先行詞が *mother* なのか、*Brian Laundrie* なのか迷うのではなかろうか。そこで意味の明確化のために *the man* を、例えて言えば「仮」先行詞として置くことで、*who* の「実」先行詞は *Brian Laundrie* であることを示すのが、この同格用法の狙いではなかろうか。同格表現は、「先行する名詞または名詞相当語句に補足的な説明を加えるために用いる」と

というのが一般的な用法であろう。しかし、同格表現の中には非制限用法の関係代名詞のみでは、瞬時に意味が捉え難いような場合に、「文意の明確化」のために用いられるものもあるように思われる。

2-3. 同格表現中の仮先行詞が伴う *that/which* が実先行詞の「位置情報」を提供⁷

用例 VI : But [Lloyds Banking Group] still has £298 billion of overall wholesale debt, down by only 8% over the year, a position which means it is probably still the bank with the single largest shortfall between loans and deposits in the world. (*The Economist*, 2/25/2011)

(しかし、ロイズ・バンキング・グループは現在も 2980 億ポンドに上る他金融機関からの総借入額を抱えており、過去 1 年間でわずか 8% しか減少していない。この状況は同銀行の融資と預金残高を比較すると、ロイズが今なお世界で最大の預金不足を抱えているであろうことを示している)

本用例で *a position* という同格表現を使っている理由は何なのか。試しに *a position* を削除して、カンマの後を *which* で始めてみよう。すると、その先行詞は次の 3 つのいずれかに見えるのではなかろうか: ① [*Lloyds Banking Group*] ... *the year* までの全体 ② *£298 billion of overall wholesale debt* ③ *down by only 8% over the year*。そして、文後半の *the single largest shortfall between loans and deposits* まで読むと、先行詞は②であることが分かる。これを示すために *a position* という仮先行詞を置くが、直前の③も *a position* と見なせよう。そこで、より遠くに位置する②であることを示すために、「先行詞が隣接する場合に使うことが多い *that*」に代えて「先行詞が遠くに位置する場合に使うことが多い *which*」を用いたのではなかろうか⁸。

では、*a position* を仮先行詞に用いているが、実先行詞が近くに位置するために *a position that* が使われていると思われる用例は存在するのか。次を見てみよう。

用例 VII : In 1956, the Soviet Union offered to return the two smaller islands but Japan refused, partly owing to American pressure. Subsequent attempts at negotiations floundered as Japanese leaders have, until now, demanded the transfer of all four islands, a position that Soviet and Russian leaders have steadfastly rejected. (*The Economist*, 12/12/2016)

(1956 年、ソ連は (北方領土) 2 島の返還を提案した。日本は米国からの圧力もあり、これを拒否した。日本政府首脳が今日に至るまで 4 島返還を要求し、これをソ連、そして後のロシアの首脳が頑なに拒否する中、それ以降の交渉は失敗に終わっている)

本用例では、なぜ *a position that* が使われているのだろうか。この同格表現を非制限用法 *which* に置き換えて書いたとしよう。Subsequent attempts at negotiations floundered as Japanese leaders have, until now, demanded the transfer of all four islands, which Soviet and Russian leaders have steadfastly rejected. こう書くと、*which* まで読んだ時点で、先行詞は近い順に ① *all four islands* ② *the transfer (of all four islands)* ③

subsequent attempts (at negotiations) が候補と思われ、意味が不明確となろう。*ChatGPT* も同意見で、次のように明確化することを提案してきた：Subsequent attempts at negotiations floundered as Japanese leaders have, until now, demanded the transfer of all four islands, something that Soviet and Russian leaders have steadfastly rejected. この *something* という単数名詞を仮先行詞とすることで、実先行詞は複数名詞である①または③ではなく、単数名詞の②であることが示唆されると言う。*ChatGPT* が用例 VII と同様に同格表現を仮先行詞として用いる対策を講じたことは興味深い。意味の明確化のために、*a position* という仮先行詞の使用、並びに隣接する実先行詞の位置情報を提供する *that* の使用という「併せ技」が用いられていると言えよう。

3. 小西（2017）の再考

上述の用例 I～VII の考察に、その他の視点も加えて、小西（2017）で検討した 16 用例を以下で再考する。まず、(1)に小西（2017）の考察内容を示す。(2)で、当該用例に含まれる「同格表現」を削除し、「非制限用法の関係代名詞」で書き換えた文を検討し、同格表現が果たしていた役割を理解する。そして、(3)で再考する。

用例 1：Fees at Minerva Schools, an online institution that aims for top-notch students, are half of those at Ivy League universities. (*The Economist*, 10/2/2014)

（試訳は「1. はじめに」を参照）

(1) 小西（2017年）：

Minerva の授業料が *half of those at Ivy League universities* であることの意味合いを適切に理解するには、*Minerva* が *top-notch students* を対象にした *online institution* であることは不可欠な情報と思われるため、*that* が選択された。

(2) 書き換え：

Fees at Minerva Schools, which aims for top-notch students, are half of those

同格表現 *an online institution* を削除し、非制限 *which* で書き換えると、先行詞は文意から判断すると *Minerva Schools* しかあり得ないが、*Fees* を先行詞候補から除外するのに瞬時の判断が求められる。*ChatGPT* も先行詞の選別に一瞬迷う可能性があると言う。

(3) 再考：

an online institution という補足情報の提供を兼ねた仮先行詞を用いることで、実先行詞が *Fees* ではなく *Minerva Schools* であることを示している。実先行詞が関係代名詞に隣接しているので、その位置情報を提供する *that* が用いられている。

用例 2：All this helps to explain concerns over the use of face-recognition software by the likes of Google and Facebook, which have been acquiring firms that specialise in that technology, or licensing software from them. (Google recently snapped up Pittsburgh Pattern Recognition, the firm which owns the programme the researchers used for their tests.) (*The Economist*, 7/30/2011)

（試訳は「1. はじめに」を参照）

(1) 小西 (2017 年) :

・・・(同格表現を含む文の直前に) *acquiring firms that specialise in that technology, or licensing software from them* とあり、*Pittsburgh Pattern Recognition* が会社名なのか、ソフト名なのか不明確なために、*the firm* を挿入したと考えられないだろうか。

(2) 書き換え :

... *acquiring firms that specialise in that technology, or licensing software from them.* (Google recently snapped up Pittsburgh Pattern Recognition, which owns the programme the researchers used for their tests.)

下線部を読むと、*Pittsburgh Pattern Recognition* が直前に言及された *software* とも思える。

(3) 再考 :

the firm, which のカンマが省略されている。尚、*ChatGPT* も *licensing software from them* が直前にあるため、*the firm* が同格として用いられたと見る。... *Pittsburgh Pattern Recognition, the firm, which owns the programme* とすることも可能だが、*flow* と *clarity* の観点から *the firm which* のようにカンマは省略した方が良いとの回答であった。尚、*clarity* が何を意味するかは、未確認だが、恐らくカンマがあると、文頭の *Google* が一瞬、*which* の先行詞に見え、*clarity* が損なわれるということではないか。

用例 3 : United reported strong profit in the first quarter, a period that ended before Dr. Dao's forced removal from the flight. (*The Wall Street Journal, 4/21/2017*)

(ユナイテッド航空は第 1 四半期に好調な利益を計上した。第 1 四半期はダオ医師が同社の航空機から無理やり引きずり下ろされた四半期の前の期だ)

(1) 小西 (2017 年) :

米ユナイテッド航空が、座席を譲ることを拒否した乗客 (*Dr. Dao*) を機内から無理やり引きずり下ろす事件が発生した。同社は 2017 年第 1 四半期の利益は好調だったが、社長の Kirby 氏は事件が起きた第 2 四半期以降の予約への影響はこの時点では不明としている。従って、第 1 四半期が *a period that ended before Dr. Dao's forced removal from the flight* であったことは不可欠な情報と言えよう。

(2) 書き換え :

United reported strong profit in the first quarter, which ended before Dr. Dao's

こう書くと、*which* の先行詞が *the first quarter* か *strong profit* か不明確となる。

(3) 再考 :

実先行詞は *the first quarter* なので、*a period* を仮先行詞に用い、隣接する実先行詞の位置情報を提供する *that* が選択されたと言えよう。

用例 4 : The new study, requested by G-20 leaders last November, fingers biofuel subsidies as among the leading causes of agricultural price shocks. According to the report, "between 2000 and 2009, global output of bio-ethanol quadrupled and production of biodiesel increased tenfold," a spike which "has been largely driven by

government support policies.” (*The Wall Street Journal*, 7/15/2011)

(昨年 11 月に G20 首脳が要請した調査は、バイオ燃料向けの補助金農産物価格の高騰の主な要因のひとつと指摘する。報告書によると、2000 年から 2009 年の間に世界のバイオエタノールの生産は 4 倍、バイオディーゼルの生産は 10 倍になった。この増加は「(関係)政府の補助政策よるところが大きい)

(1) 小西 (2017 年) :

同格表現が含まれる文の前文が同様の内容であり、それを補足的に受けているので非制限 *which* が使われている。

(2) 書き換え :

.... “between 2000 and 2009, global output of bio-ethanol quadrupled and production of biodiesel increased tenfold,” which “has been largely driven by”

which の先行詞がどの部分かが不明確である。

(3) 再考 :

global output of bio-ethanol quadrupled and production of biodiesel increased tenfold が先行詞句なので、句全体の意味を表す *a spike* を仮先行詞とし、長い実先行詞を指し示すために *that* ではなく *which* が選択されている。

用例 5 : So he got into the shoes snarling. Mary was soon ready, and the three children set out for Sunday-school — a place that Tom hated with his whole heart; but Sid and Mary were fond of it. (*The Adventures of Tom Sawyer*)

(それで、トムは靴をはきました。ブーブー言いながらです。メアリーもすぐに支度を整えました。そして、3 人の子供は日曜学校へと出かけて行きました — そこは、トムが心の底から嫌っているところでした。でも、シッドとメアリーとは、大好きなところだったのです)

(1) 小西 (2017 年) :

「トムが心底、日曜学校を嫌っていた」という情報なしには、なぜ彼が靴を履きながらブーブー言ったのが理解出来ないので、不可欠な情報。従って、*that* が使われた。

(2) 書き換え :

Mary was soon ready, and the three children set out for Sunday-school — which Tom hated

こう書くと、*which* の先行詞がどちらの下線部か、又はその一部かが不明確である。

(3) 再考 :

トムが嫌っているのは *Sunday-school* なので、仮先行詞 *a place* を用い、実先行詞は隣接するので *that* を用いた。

用例 6 : After the hymn had been sung, the Rev Mr Sprague turned himself into a bulletin board and read off ‘notices’ of meetings and societies and things till it seemed that the list would stretch out to the crack of doom—a queer custom which is still kept

up in America, even in cities, away here in this age of abundant newspapers. Often, the less there is to justify a traditional custom, the harder it is to get rid of it.

(讃美歌の合唱が終わると、牧師のスプリングさんは掲示板の代わりにしました。そして、集会だとか懇親会だとか、そのほかいろいろな事項に関する「お知らせ」を早口で読み上げました。どうやらこのリストはいつまでも続いて、最後の審判の日の雷がなるまで止まらないのではないか、と思えるほどでした。—これは奇妙な習慣で、今でもアメリカでは行われているのです。都会のようなところでもそうです。ずっと時を経た今日、有り余るほど色々な新聞が出回っている現代の都会でさえ、そうなのです。しばしば、慣習というのは、正当化する理由がなければいけなく、廃止することが難しいのです)

(1) 小西 (2017年) :

「この奇妙な習慣」はその後に書かれている「しばしば、慣習というのは、正当化する理由がなければいけなく、廃止することが難しい」と密接な関係にあり、本来は *that* を用いるべき箇所と思われる。しかし、この関係代名詞節は二つの副詞句を含んでおり、それらがカンマで区切られるという複雑な構造となっているため、*that* に代えて *which* が使われていると思われる¹⁰。

(2) 書き換え :

After the hymn had been sung, the Rev Mr Sprague turned himself into a bulletin board and read off ‘notices’ of meetings and societies and things till it seemed that the list would stretch out to the crack of doom — which is still kept up in America,

非制限の *which* のみでは先行詞を判断することは難しい。

(3) 再考 :

a queer custom という仮先行詞は、実先行詞である前文全体の内容を表しており、長文なので *which* を用いている。加えて、この関係代名詞節は *even in cities* と *away here in this age of abundant newspapers* も内包しており、*which* が適している。

用例 7 : “From the collapse of the Republican plan to repeal and replace Obamacare, something that Trump said he would do on day one, to the explosive FBI announcement that there’s an ongoing investigation into possible links between Russia and the Trump campaign, the common thread here is a White House with a credibility problem,” Stelter said. (CNN, 3/27/2017)

(トランプ氏が大統領就任後の初日に実行するとしていたオバマケア (医療保険制度改革法) を改廃するという共和党の計画の失敗からトランプ陣営とロシアの関係の有無を FBI が調査中という爆弾発表に至るまで、共通しているのはトランプ政権の信頼性だ)

(1) 小西 (2017年) :

オバマケア (医療保険制度改革法) 改廃法案に関して、「トランプ政権が優先的に取り組む事項」と公約していたことは、その法案撤回が同政権の *credibility problem* となる根拠の一部を示しているため、不可欠な情報であり、*that* が用いられた。

(2) 書き換え :

"From the collapse of the Republican plan to repeal and replace Obamacare, which Trump said he would do on day one,

非制限 *which* の先行詞が不明確で、一瞬、*the collapse of the Republican plan to repeal and replace Obamacare* にも見える。

(3) 再考 :

仮先行詞として *something* を置くと、直後に *that Trump said he would do...* と続くため、*to repeal and replace Obamacare* との結び付きが明確になる。*something* に続く関係代名詞は慣用的に *that* が多いと言われている。更に、実先行詞が仮先行詞に隣接するために *that* を用いた可能性もあるが、米国の主要メディアの場合には *that/which rule* の遵守で *that* を選択している可能性もあり断言はできない。

用例 8 : This can be less distracting because the driver does not need to adjust visual focus when looking between the road and a screen, says Sachin Lawande, a technologist at Harman, an American company which makes audio equipment for homes and cars. (*The Economist*, 11/28/2013)

(この(技術は運転手の)注意をそらす可能性が少ない。なぜなら(普通は車の計器に表示する情報をフロントガラスに映し出すからで)運転手が道路とスクリーンの間で目の焦点を調整する必要がないからだ、とサチン・ラワンデイは言う。同氏はハーマンの技術者で、米国企業である同社は家庭用や自動車用のオーディオ機器のメーカーである)

(1) 小西 (2017 年) :

Harman が *audio equipment for homes and cars* のメーカーであることは、前後関係から判断して補足的情報と言えよう。

(2) 書き換え :

..., says Sachin Lawande, a technologist at Harman, which makes audio equipment for homes and cars.

この場合に、*which* の先行詞が *Harman* であることは明確である。

(3) 再考 :

an American company は仮先行詞で、*Harman* に関する補足情報を提供。*which* はカンマを省略した非制限用法と言えよう。

用例 9 : As the couriers carry their bundles around Buenos Aires, they pass grand buildings like the Teatro Colón, an opera house that opened in 1908, and the Retiro railway station, completed in 1915. These are emblems of Argentina's Belle Époque, the period before the outbreak of the first world war when the country could claim to be the world's true land of opportunity. (*The Economist*, 2/17/2014)

(配送業者が荷物をブエノスアイレスで配達する時、1908年に開場したオペラ劇場のテアトロ・コロンや1915年に完成したレティーロ駅といった堂々とした建造物の前を通る。これはアルゼンチンのバル・エポック(華やかな時代)の象徴で、第一次世界大戦勃発前

のその時代は同国が世界で真に成功の機会に恵まれた国と誇ることができたのだ)

(1) 小西 (2017 年) :

*that opened in 1908*はこのオペラ劇場が第一次世界大戦前の「ベル・エポック時代」の象徴の1つであることを示す不可欠な情報と言えよう

(2) 書き換え :

..., they pass grand buildings like the Teatro Colón, which opened in 1908, and the Retiro railway station, completed in 1915.

このように書くと、読み手は *completed* の前に *which* が省略されていると理解する筈である。しかし、*complete* には自動詞はないので、*which completed* は非文である。

(3) 再考 :

本稿で検討する同格表現中の *that/which* の選択には様々な要因が関わっていると思われるが、本用例ではなぜ... *the Teatro Colón, an opera house which opened* ... としなかったのであろうか。英国の主要メディアであれば、通常 *which* を選択する筈である。しかし、こう書くと、後続の部分が *the Retiro railway station, which completed in 1915* と読まれる可能性があるが、これは非文である。これを避けるには、*an opera house that opened in 1908* とすれば、*station* の後にはカンマがあるため *which was* が省略されていると理解され、「非文の問題」が解消される。これが本例で *that* が選択された理由ではないか。因みに、*ChatGPT* にこの見方の妥当性を問い掛けたところ、賛同が得られた。

用例 10 : Meanwhile, overnight interest-rate swaps—derivatives which mostly capture expectations of monetary policy—are pricing in 0.65 percentage point of cuts to the policy interest rate within the next six months, according to Nomura’s Vivek Rajpal. (*The Wall Street Journal*, 11/19/2014)

(一方、翌日物金利スワップ — 金融派生商品で主に金融政策に対する市場の期待感を反映 — は 0.65 ポイントの政策金利の引き下げを今後 6 か月以内に織り込んでいる、と野村のヴィヴック・ラジパル氏は述べている)

(1) 小西 (2017 年) :

本用例は、翌日物金利スワップが、今後 6 か月以内に政策金利の 0.65 ポイント引き下げを織り込んでいると述べている。そして、翌日物金利スワップという金融派生商品は金融政策に対する市場の期待感に主に反応するとしており、これは本ニュースを理解する上で不可欠な情報である。この記事は 2014 年 11 月 19 日に報じられたが、3 日後の 11 月 22 日には *The Australian* に掲載されており、その際には *which* は *that* に書き換えられており、本来は *that* を用いるべきことが示唆されている。

(2) 書き換え :

..., overnight interest-rate swaps—which mostly capture expectations of monetary policy—are pricing in 0.65 percentage point of cuts to the policy interest rate

which の先行詞に関する不明確さはない。

(3) 再考：

(2)では不明確さが認められないため、*derivatives* は仮先行詞で、実先行詞 *overnight interest-rate swaps* と同格で補足情報を提供している。従って、*which* はカンマを省略した非制限用法であろう。11月19日付け記事は *The Wall Street Journal* のインド出身の記者が書いており、英国語法で書かれた可能性がある。但し、米国ではこのような場合に、制限用法と見なして *that* が用いられることが多く、編集者が後日訂正した記事が *The Australian* に掲載された可能性がある。

用例 11：The CSI300, an index of the biggest mainland stocks, has more than doubled over the past year. That looks positively anaemic compared with ChiNext, a market for Chinese startups which has tripled in 12 months; let alone with shares in Qtone, an online-education company that gained almost 1,300% between its listing early in 2014 and the middle of this month. (*The Economist*, 5/30/2015)

(CSI300 は中国の上位 300 の優良銘柄の株価指数で構成されるが過去 1 年に 2 倍以上の伸びをみせている。(しかし) ChiNext と比べると可成り伸び悩んでいるように思われる。ChiNext は中国の新興企業の株式市場で過去 12 カ月で 3 倍の上昇となっている。更に差が歴然としているのは、Qtone の株(価)だ。オンライン教育を実施する同社は 2014 年初めの上場以来今月半ばまでに 1300% 近くの伸びをみせている)

(1) 小西 (2017 年)：

過去 12 か月に 2 倍超の伸びを見せた CSI300 株価指数を *positively anaemic*(ひどく停滞)とする根拠が、過去 12 か月で 3 倍となった ChiNext と、2014 年初めの上場以来 1300% 近い急騰を見せている Qtone 社の株式との比較になっているので、両者共に不可欠な情報と言えよう。しかし、*that* を用いると同一文中に That looks positively anaemic compared with ChiNext, a market for Chinese startups that has tripled in 12 months と品詞が異なる *that* が混在することになるため、後者を *which* の代えたのではなかろうか。この種の用法は数多く見られ、Jacques Barzun は著書 *Simple and Direct* で *I do not like to put close together two that's of different kinds*¹¹ と述べている。

(2) 書き換え：

.... That looks positively anaemic compared with ChiNext, which has tripled in 12 months; let alone with shares in Qtone, which gained almost 1,300%

最初の *which* の先行詞が ChiNext であることは明確だが、2 つ目の *which* の先行詞が shares なのか Qtone なのか不明確である。ChatGPT は、上記のように書き換えると、先行詞句は *shares of Qtone* で、主要部は *shares* に見えると言う。

(3) 再考：

a market for Chinese startups は補足情報を加える同格表現で仮先行詞、*which* はカンマを省略した非制限で、実先行詞は ChiNext と思われる。ChatGPT と Grammarly に尋ねると、共に先行詞は ChiNext と答えた。一方、本用例の *shares in Qtone, an online-education company* that gained almost 1,300% は仮先行詞が *an online-education company*、実先行詞は次の何れかではないかと思うが、結論には至って

いない：

(a) *Qtone* [*ChatGPT*はこれに合意]

(b) *shares (in Qtone)* [*Grammarly*はこれに合意]

... *shares in Qtone, an online-education company which gained almost 1,300%*というフレーズを提示して、両 AI に先行詞を尋ねると、共に *Qtone* と答える。*which* の前にカンマが省略されていると考えれば、実先行詞は *Qtone* となる。次に、*almost 1,300%* 上昇したのは「株式 (*shares*)」なのか、「会社 (*Qtone*)」なのか。*which* を使うと唯一無二の *Qtone* に引き付けられる。これを素通りして *shares* に行きつくには、より遠くに位置するにも拘わらず、*that* を使わざるを得なかった、といった「裏事情」があり得るのだろうか。

用例 12 : The bakery was the first business in what is now Homeboy Industries, a non-profit which has since grown to be America's largest gang-rehabilitation centre, offering employment and other services to hundreds of former gang members. (*The Economist*, 12/24/2016)

(パン作りが今日の Homeboy Industries が手掛けた最初のビジネス。同社は非営利企業で後に米国最大の暴力団更生施設となり、何百人という元暴力団員に雇用その他のサービスを提供してきた)

(1) 小西 (2017 年) :

この関係詞節に記されている内容は本ニュースにとり不可欠な情報故、本来は *that* を使うべきだが、*offering* 以下の分詞構文が関係詞節に含まれることを示す為に *which* を用いた。

(2) 書き換え :

The bakery was the first business in what is now Homeboy Industries, which has since grown to be America's largest gang-rehabilitation centre, offering employment and *which* の先行詞は明確で、*Homeboy Industries*.

(3) 再考 :

a non-profit という仮先行詞で補足情報を提供している。実先行詞は *Homeboy Industries* で、*which* はカンマを省略した非制限用法。

用例 13 : And the equipment is often located in bumpers, fenders and external mirrors—the very spots that tend to get hit in a crash. Insurance companies, unwilling to shoulder all the pain, are passing some of the cost off to buyers. (*Wall Street Journal*, 4/3/2017)

(そして、装置 (カメラ、センサー、マイクロプロセッサなど) はバンパー、フェンダー、サイドミラーに搭載されている — 車の衝突事故で正に破損しやすい箇所だ。保険会社は全ての損害の負担を嫌って、保険加入者にコストの一部を転嫁している)

(1) 小西 (2017 年) :

自動車保険会社が保険料の値上げに動いている背景を理解するには不可欠の情報なので

that が用いられている。

(2) 書き換え：

And the equipment is often located in bumpers, fenders and external mirrors—which tend to get hit in a crash....

(3) 再考：

書き換え文と比べると、仮先行詞である同格表現 *the very spots* により、実先行詞である *bumpers, fenders and external mirrors* が破損する可能性が高い箇所であることが強調されている。先行詞が最上級の形容詞や、*first, only, very* などによって修飾される場合、*that* が比較的良く用いられるとの指摘は一般の文法書にも見られる¹²。

用例 14 : The irony is that, by withdrawing from the TPP—a trade agreement which, though it currently excludes China, might one day have constrained its ability to pollute and subsidise state-owned enterprises—Mr Trump has immediately turned his back on the most promising way to change the economy he seems most worried about. (*The Economist*, 1/27/2017)

(皮肉にも、環太平洋パートナーシップ協定 (TPP) から離脱することで、トランプ大統領は彼が最も懸念していると思われる中国経済に変化を及ぼす最も有効な方法に即座に背を向けることになったのだ。TPP は現在中国を除外しているが、(同国が将来加盟すれば) 何れ、環境汚染や国営企業への補助金に関して同国を抑制することが可能となったであろう)

(1) 小西 (2017 年) :

which 以下は不可欠な情報故、本来 *that* を使うべきだが直後に *though* で始まる長い挿入句があるので *which* を用いた。

(2) 書き換え：

The irony is that, by withdrawing from the TPP—which, though it currently excludes China, might one day have constrained its ability to

(3) 再考：

a trade agreement は実先行詞 *the TPP* に対する補足情報で、*which* はカンマを省略した非制限用法と思われる。

用例 15 : The oldest European family business, according to Mr O'Hara and Peter Mandel in *Family Business* magazine (see table), is Château de Goulaine, a vineyard in France's Loire valley that dates from 1000—and also boasts a museum and butterfly farm. Britain's oldest family business, founded in Huddersfield in 1541, is John Brooke & Sons, a textile-maker that helped clothe Britain's bravest during the battle of Trafalgar and the second world war, but has now abandoned manufacturing and turned its mills into a business park. (*The Economist*, 12/16/2004)

(ヨーロッパで最も古いファミリー企業は・・・シャートー・ダ・グレインだ。フランスのロワール渓谷にある西暦 1000 年に造られたブドウ園。美術館と蝶々園も併設されてい

る。英国で最も古いファミリー企業は 1541 年にハダースフィールドに設立されたジョン・ブルック・アンド・サンズ。トラファルガーの海戦や第二次世界大戦で英国の兵士に軍服を供給した。しかし、今は製造業からは撤退し、繊維工場は産業団地に転換された)

(1) 小西 (2017 年) :

この文章はヨーロッパ最古のファミリー企業を紹介しているので、*dates from 1000* や *helped clothe Britain's bravest ...* は不可欠な情報であり、*that* が使われている。

(2) 書き換え :

The oldest European family business ... is Château de Goulaine, a vineyard in France's Loire valley *which* dates from 1000 Britain's oldest family business, founded in Huddersfield in 1541, is John Brooke & Sons, a textile-maker *which* helped
本用例の問題点を理解するために、2つの同格表現中の *that* を *which* に置き換えてみた。

(3) 再考 :

(2)に示した書き換え文の最初の *that* を「カンマを省略した *which*」に置き換えると、*which* の先行詞は *France's Loire valley* と見られる可能性がある。そこで、仮先行詞が *a vineyard in France's Loire valley*、実先行詞が *Château de Goulaine* と読まれるように *that* を用いたのではないか。2番目の同格表現で *which* を用いると、*John Brooke & Sons* は今現在も *a textile-maker* と読まれてしまう。そこで、両者ともに *that* を用いたのではないか。*ChatGPT* も同様の見方。

用例 16 : The scores from this rating were then used in conjunction with an applicant's score on the Graduate Management Admission Test, or GMAT, a standardised exam which is marked out of 800 points, to make a decision on whether to accept him or her. (*The Economist*, 6/16/2012)

(この(面接の)スコアは、次に志願者の GMAT スコアと共に用いられて、志願者の合否が決定される。志願者の GMAT スコアは標準学力テストで 800 点満点で採点される)

(1) 小西 (2017 年) :

a standardized exam がないとすると、*which* の先行詞が *the Graduate Management Admission Test* なのか、*GMAT* なのかが構文上、不明確となる。そこで、*a standard exam* という同格表現を付加情報として追加することで構文の明確化を図ったのではなからうか。

(2) 書き換え :

... the Graduate Management Admission Test, or GMAT, *which* is marked out of 800 points, to make a decision on whether to accept him or her.
which の先行詞は *GMAT* で明確。

(3) 再考 :

a standardised exam は仮先行詞であり、実先行詞 *GMAT* を補足している。直後にある *which* はカンマを省略した非制限 *which* である。

4. おわりに

同格表現中で用いられる関係代名詞の *that/which* の選択を巡る筆者の検討は長期にわたり暗中模索状態にあった。その最も大きな原因は、非制限用法の *which* を「カンマを省略した非制限用法」と疑いつつも断定できず、なぜ制限用法の *that* に代えて、制限用法の *which* を敢えて使用するのかを突き止めようとしていたことにある。小西（2017年）で検討した *that* 又は *which* を含む 18 の同格用例中、12 例が非制限用法 *which* の用例であったことが、事の深刻さを表している。その意味で幾つかの新たな用例に遭遇し、間違いに気づいたことは大きな前進であった。

今回の「再考」で漸く、「関係代名詞制限節で用いられる *which* の用法」に関する検討の次のステップに進むことが可能となったと思われる。制限 *which* の使用頻度は英米で 1960 年頃から急速に減少し、それを補うように *that* の使用頻度が増加していると言われている¹³。この背景にあるのは「英語の口語化」という現象があると言われるが、10 程度あると思われる制限用法 *which* のどの部分でこの変化が起きているのか、400 万語程度のデータを用いて検討してみたいと思っている。

注

1 本稿は 2023 年 10 月 14 日の日本英語コミュニケーション学会年次大会における同名の研究発表の内容に大幅に加筆したものである。

2 この点に関するより詳しい議論は小西（2017：21-22）参照。

3 小西（2017：25）を参照。

4 小西（2017：31-32）

5 このような場合に *tests* のみを先行詞とする場合もあるが、本例では *serological tests* は固有の概念として扱われているので、このフレーズ自体を先行詞と見なすべきと思われる

6 用例 IV で *The New York Times* は、なぜ *which* ではなく *that* を使っているのか。先ず、米国の主要メディアは英国の主要メディアと比べると、同格表現も含め、*that/which rule* 遵守を重視する傾向もある。一方、本例では *produces* の主語は、*a recent review* ではなく、より関係代名詞に近い *Cochrane* であり、この位置情報を示す為に *that* が使われたとの解釈も成り立つ可能性がある。

7 「仮先行詞」、「実先行詞」という呼称は筆者が知る限り存在しないが、本稿ではそのまま用いる。

8 関係代名詞 *that* と *which* とそれぞれの先行詞との距離に関する考察に関しては、小西和久（2015：17-18）を参照。

9 マーク・トウェイン；大久保 博. トウェイン完訳コレクション トム・ソーヤーの冒険（角川文庫）（Kindle の位置 No.915-922）. Kindle 版.

10 例えば、小西和久（2015：18-19）を参照。

11 Barzun (1975: 83-84)

12 綿貫 陽他（2000：644）

13 例えば、小西（2019：17-21）を参照。

参考文献

- Barzun, Jacques. (1975). *Simple & Direct*. 4th ed. New York: Harper Perrenial
- Follet, W. (1966). *Modern American Usage*. New York: Hill & Wang
- Pinker, S. (2014). *The Sense of Style*. London: Penguin Books
- 小西和久 (2015) 「英文メディアにみる exceptional which に関する一考察」 *The JASEC Bulletin*, 24(1), 1-24
- 小西和久 (2017) 「英文メディアの同格表現にみる制限用法関係代名詞 *that/which* の選択要因について」 *The JASEC Bulletin*, 26(1), 21-35
- 小西和久 (2019) 「*New York Times* にみる関係代名詞制限用法 *which* の近年使用頻度と Orwell にみる 1940 年代の英国用法との比較」 *The JASEC Bulletin*, 28(1), 17-32
- 綿貫陽他 (2000) 「ロイヤル英文法」(改訂新版) (旺文社)